

Trimble



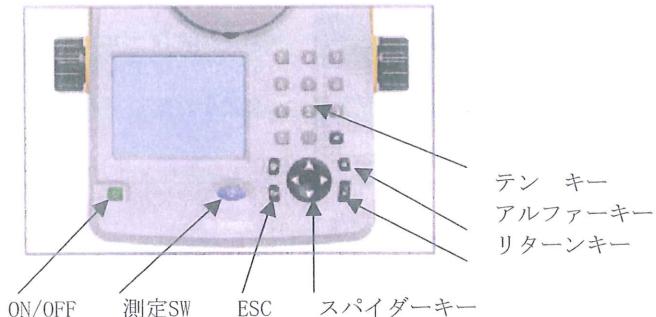
DiNi® 0.3 簡易取扱説明書

日本総代理店
タマヤ計測システム（株）

（1）使用上の注意

- 1) アジャストをするときは、本体をケースから出して環境温度に馴染ませて下さい。 温度 1°C に対し約 2 分が目安となります。
保管時との温度差が 20°C の場合には、約 40 分位待ってから行います。また望遠鏡十字線は、一度視度を合わせたら、アジャストを完了するまで変えないで下さい。
- 2) アジャストは、なるべく日陰の場所か曇天時に行って下さい。また本体や標尺視準目盛部分に、直射日光が当たる時には、傘などで影にして下さい。
- 3) 視準したとき標尺の目盛が木陰などで、日が当たる部分と影の部分が同時にあるとエラーになる恐れがあります。
そのときには視準目盛部分を傘などで影にして下さい。
- 4) アジャストをするとき、繰返し測定モード(RPT)を使用することもできます。

表記及び基本キー操作



（2）電子的視準線調整 (ADJUSTMENT)

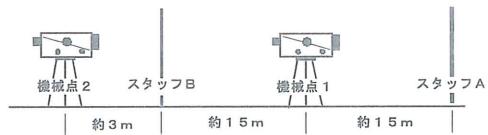
電子的視準線の調整方法は、フォレストナー方式、ネバウエル方式、クッカマキ方式と日本方式の4種類の方法があります。
簡易取扱説明書では、例として日本方式を記載致します。

他の方法で調整するときには、本体に添付している取扱説明書を参照して下さい。

日本方式 (Japanese method)

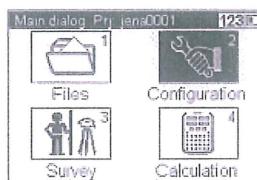
この方式は調整点検で行っている等／不等距離法で補正角を決定します。2本の標尺 (A B) を 15 m 間隔に設置し、最初に標尺

(A B) の中間で機械点 (1) から標尺 (A B) を測定し次に機械を (2) へ移動し標尺 (B A) の順で測定する方法です。
アジャストでは三脚反転測定はしません。

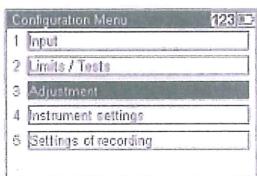


（3）電子的視準線調整 (アジャストメント)

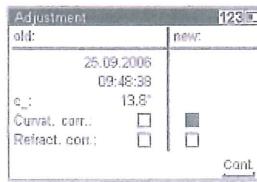
DiNi 0.3 本体を ON にすると下記のメインメニューになります。



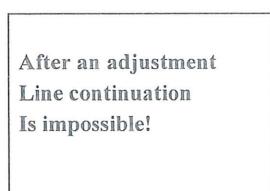
この 4 つのメニューの中で使用するのは 2 番の Configuration と 3 番の Survey を主に使用します。スパイダーキーで 2 番の Configuration に合わせリターンをしてください。



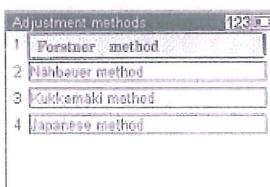
3 番の Adjustment に合わせリターンしてください。



表示されたのは、前に行われた Adjustment の日時・補正角度が表示されています。
2006年 9月 25日 9時48分38秒
視準線定数値は + の 13.8 秒
Curvat. corr.: 球面補正 無し
Refract. cor.: 大気屈折補正 無し
リターンをして先に進みます。

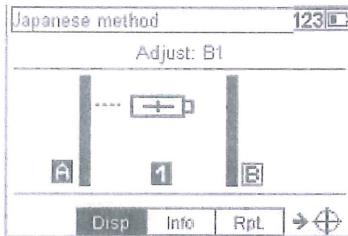


現在進行中の測定の補正角調整は続行可能です。
(Adjustment を行っているのでそのまま続ける。)
リターンをしてください。

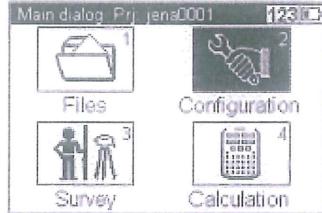


1 Forstner method
2 Nabauer method
3 Kukkamaki method
4 Japanese method

4 番目の Japanese method
日本方式に合わせてリターンして下さい。

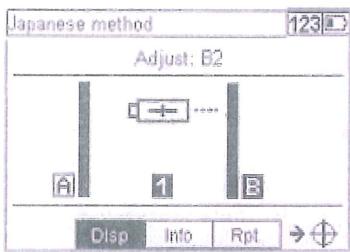


機械を1の位置に置き
A標尺15m・B標尺15m
B標尺の方向に3m移動し
点検作業の形で行います。
A標尺を視準し測定して
下さい。

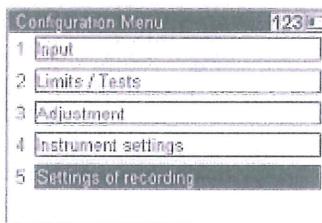


ケーブルを接続する前に
メインメニューに帰って
下さい。

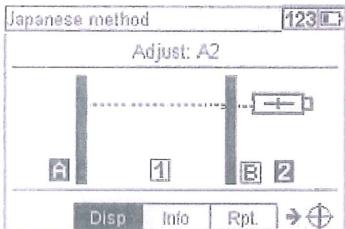
そして、Configurationに
合わせリターンして下さい。



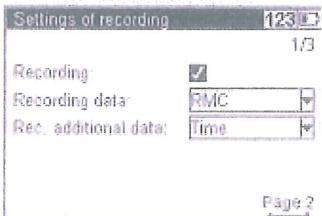
B標尺を視準し測定して
下さい。



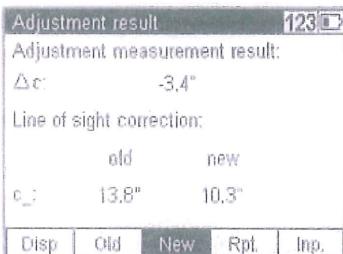
5番目のSetting of recording
に合わせリターン。



2の位置に移動し
A標尺を視準し測定します。



Recording の スパイダの左をおしてチェックを消して下さい。
その後、ESC を2回押しメインメニューにかえります。
これは、本体内部での記録をしない処置です。

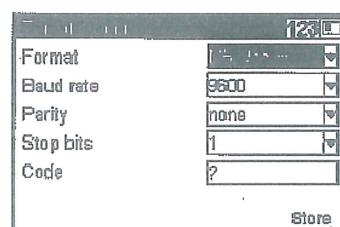


今回の視準線補正角は
+の10.3秒でした。
前回視準線補正角は
+の13.8秒でした。
その差は-3.4秒と
なります。

OKならばリターンして
ください。

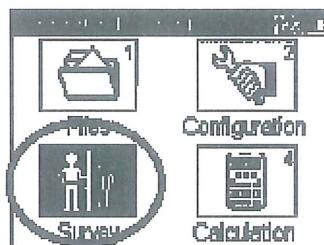
以上 電子的視準線調整(Adjustment)が完了しました。
この後に、LC-3000を使用して点検調整を行ってください。

注意：入力した補正角は記憶され、再度アジャストをしない限り電源 OFF にしても消去しません。



特に問題はありませんが、
USB/シリアル変換で接続された事を意味します。

ESCキーを押してメイン
メニューに戻ってください。



Surveyをリターンし
後は、LC-3000と接続し
点検作業を行って下さい。

(4) LC-3000とのケーブル接続。

DiNi0.3の外部出入力はUSB接続が主体となっています。用意されているDiNi0.3専用ケーブルは、LC-3000とその他タマヤLCシリーズにもDiNi0.3と接続できるようにUSB/シリアル変換した専用のケーブルを使用しております。

従いまして、DiNi0.3を接続される時にはUSB/シリアル変換処理を行った専用ケーブルをお使いください。

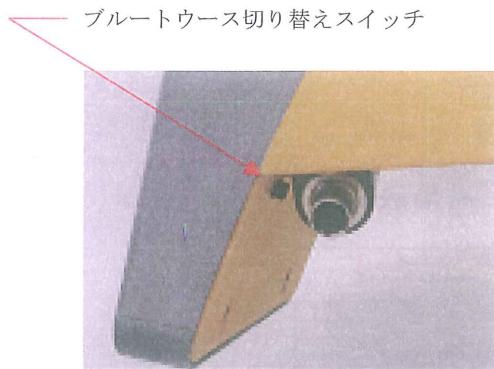
DiNi O. 3 BT 簡易取扱説明書



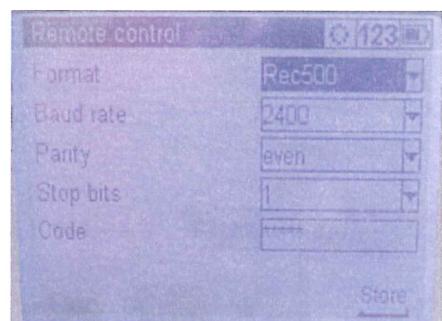
タマヤ計測システム株式会社

03-5764-5561

1、DiNi O. 3 の設定 本体



- 1、
DiNi O. 3 の裏底にブルートウーススイッチがあります。

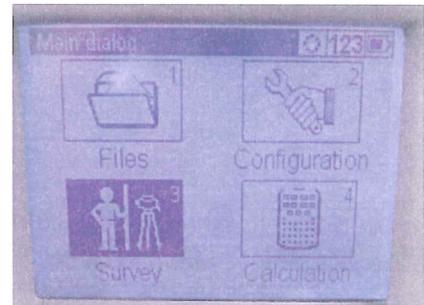


- 2、
電源を ON のすると BT 設定の場合は上記表示になります。

3、



- 1、
ESC スイッチを押すと通常モードにかわります。
そのままでも操作に影響はありません。



- 2、
ESC スイッチを押しメインメニューになります。

※ Bluetooth 設定



システムメニューを選択し
Bluetooth 設定 を選択します。



表示された DiNi0370123 の
下4桁を PIN ナンバーとして
入力する。
その後 接続 をクリックして、
完了。



開始 ボタンをクリックしてください
尚、終了 の場合はクリックして
開始 にもどし Bluetooth 機能を始動
させてください。その後 検索 を
クリックし DiNi のコードを呼びこんで
ください。



システムメニューから
通信設定 を
選択し Bluetooth か
ケーブル設定かを選び
ます。



画面上には DiNi0370123 機械 No
が表示されます。

BT1: の 接続 をクリック。



Bluetooth の場合は
Bluetooth 接続 を選択
ケーブル接続の場合は
ケーブル接続 を選択